

わが国には、2013年4月現在、港湾法に規定された994の港湾と、漁業法に規定された2,909の漁港があり、各種の港湾施設が整備され、ポートオーソリティ（港務局、港湾局）や地方自治体などの組織によって管理、運営されています。

中部9県（富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀）には、そのうち港湾が73港、漁港が287港、総数360港が整備されています。「中部の港湾探訪」では、物流機能を通じて広く、産業経済に寄与しているとの視点から、主として貿易港を対象に各県の国際拠点港湾および重要港湾を紹介していきます。第3回となる今回は名古屋港（後編）です。

第3回 名古屋港（後編） 地域に開かれ、親しまれる名古屋港



写真提供：名古屋港管理組合

1. 概要と沿革

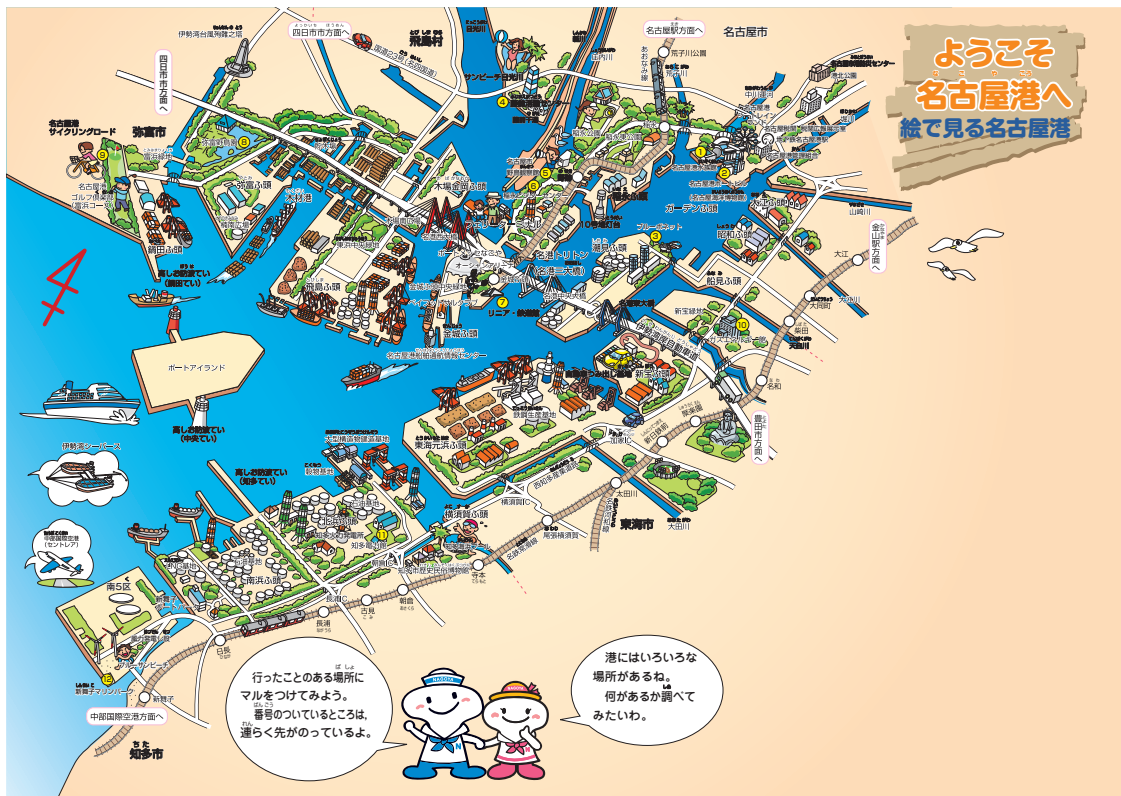
（1）「親しめる港づくり」の沿革

名古屋港では物流拠点が南側に移ることに伴い、1975年代から「親しめる港づくり」に力を入れてきた。その端緒となったのが、かつて物流の中心エリアだった築地地区を整備した「ガーデンふ頭」である。

1984年に名古屋港ポートビルがオープンし、1989年には世界デザイン博覧会の会場のひとつとなった。1990年代には、名古屋港水族館（1992年）、名古屋港シートレインランド（1995年）が相次い

で開業、現在は名古屋市における最大のアミューズメントエリアのひとつとして定着している。

近年は、交流拠点として金城ふ頭の再開発も進められている。ここには1973年に名古屋市国際展示場「ポートメッセなごや」が開館していたが、本格的に再開発が始められたのは2004年のあおなみ線開業以降で、2005年にウェディングスペース、2008年にフットサルアリーナ、2011年にリニア・鉄道館がオープンしている。名古屋市では2007年度に「モノづくり文化交流拠点構想」を策定し、その中心に金城ふ頭を位置付けて、新しい交流・観光の拠点づくりを進めている。



出典：名古屋港管理組合

他には、新舞子マリンパーク（南5区）、名古屋港ゴルフ倶楽部 富浜コース（鍋田ふ頭）など、さまざまなスポーツ・レジャー施設が港内に点在しており、長期構想に基づき新たな施設の整備も行われている。また定期イベントや寄港船の一般公開なども頻繁に実施され、多くの人が港に親しむ機会を設けている。

（2）ガーデンふ頭の概要

ガーデンふ頭は名古屋港開港以来、外国貿易の拠点としての役割を担ってきたエリアで、以前は2号地と呼ばれ、中央ふ頭、東ふ頭、西ふ頭を有していた。高度成長期に港の拡大によって物流拠点が南下するのを受け、この3つのふ頭の活用が模索された。昭和50年代より「親しまれる港づくり」構想に基づいた再開発を開始し、臨港緑園の整備を皮切りに、ガーデンふ頭として名古屋港ポートビル、南極観測船ふじなどの施設が整備された。

1991年には、名古屋港管理組合と名古屋市が共同で「築地ポートタウン計画」を策定し、背後地と一体となった、より魅力のある港と街づくりが

目指された。この計画をもとに名古屋港水族館、JETTY、シートレインランドがオープンし、名古屋市および愛知県を代表するレジャーエリア・観光スポットに成長した。

また、大型旅客バースを備えており、国内外の豪華客船や帆船などの接岸が可能となっている。2007年、2011年には世界最大級の帆船「日本丸」「海王丸」が同時寄港、また「飛鳥II」「ぱしふいっくびいなす」などの大型旅客船もたびたび停泊し、市民や船舶ファンの注目を集める機会も多くなっている。

イベントも頻繁に開催されており、名古屋港を代表するイベントである「海の日 名古屋みなと祭」は、終戦翌年の1946年から開催されている。またその翌年からは「名古屋みなと祭 花火大会」も始まり、現在に至るまで続いている。このほか定期イベントとしては、クリスマスシーズンに「STAR★LIGHT REVUE」を実施。過去には1989年の世界デザイン博覧会、2007年の名古屋港開港100周年記念事業などの大型イベントも成功している。

(3) 金城ふ頭の概要

「親しめる港づくり」におけるもうひとつの核である金城ふ頭は、名古屋港の中央に位置し、1963年から埋め立てが始まり、1990年に完成した。総面積191万㎡を有する人工島で、東京都大田区の平和島や昭和島、東京都江東区の夢の島、兵庫県神戸市のポートアイランド（完成当時、世界最大の人工島）や六甲アイランドなどと並ぶ規模を誇り、背後地とは2ヶ所の橋りょう（金城橋、金城西橋）により結ばれている。

1968年12月に名古屋港に訪船初のフルコンテナ船「箱根丸」が入港するなど、商港機能の中核を担う重要なふ頭として成長してきた。輸出入基地として整備されると同時に、1973年には名古屋市国際展示場「ポートメッセなごや」がオープンし、名古屋を代表する大規模イベント会場として機能している。2000年代以降には交流拠点としてさまざまな施設が集積し、「伊勢湾岸自動車道」（新東名・新名神高速道路と接続）の開通や2004年の「あおなみ線」の開業によって、名古屋市でも有数の交通基盤を備えた地域となった。人・物・情報でにぎわう国際交流の場として成長が期待されており、コンベンション施設の名古屋市国際展示場「ポートメッセなごや」を始めとして、数々の商業娯楽施設が立地したことにより、新たなにぎわいが創出され、名古屋港ではガーデンふ頭に次いで市民や観光客の来訪が多い。

また、2007年3月に名古屋港の展開方向を示す指針として策定された、長期構想「名古屋港の針路」においても、「交流・環境ゾーン」と位置づけられており、更なる交流空間の整備が求められている。

2. 現況

(1) ガーデンふ頭および周辺の諸施設

ア. 名古屋港ポートビル・名古屋海洋博物館

名古屋港ポートビル・名古屋海洋博物館は、ガーデンふ頭の中核施設として1984年にオープンした。高さ63mの特徴的な外観は「海に浮か

ぶ白い帆船」をイメージしており、名古屋港のシンボリック施設として広く親しまれている。館内にある6室の会議室や講堂が市民に幅広く活用されているほか、名古屋港の歴史と役割、港の機能や船について紹介する「名古屋海洋博物館」や、港を一望できる展望室も設けられている。

イ. 名古屋港水族館

名古屋港水族館は、中部地方最大の水族館で、世界最大級のメインプールや76の展示水槽を有している。南館は1992年、北館は2001年にオープンした。

南館は「名古屋港発南極への旅」をテーマに、日本から南極までを5水域に分類して約500種5万点の生物を展示する。また、北館では「35億年はるかなる旅-ふたたび海へもどった動物たち」をテーマに、シャチ、バンドウイルカ、ベルーガなどの海洋哺乳生物を展示している。このほか、「カメ類繁殖研究施設」が併設されており、ウミガメ、ペンギン、シロイルカなどの保護、研究、繁殖などでも実績を上げている。

ウ. 南極観測船ふじ

1965年から18年間稼働していた南極観測船「ふじ」を、1985年から「南極の博物館」として、当時の姿のままガーデンふ頭に永久係留している。航海中の様子を再現しており、船内を開放して、観測船（砕氷船）という特殊船の構造や輸送手段としての船の役割や、南極の自然



写真提供：名古屋港管理組合

や南極観測の意義などを紹介することにより、わが国の南極観測事業に対する理解を高めることに寄与している。

エ. JETTY

JETTYは、1992年に開設された大規模商業施設で、レストランやフードコート、雑貨店などがあるWESTと名古屋土産の代表的なお菓子を販売する店のあるNORTHの2館から成る、お土産、雑貨、飲食といろいろなジャンルすべてが揃う人気スポットで、休日などは大変混み合っている。

オ. 名古屋港シートレインランド

名古屋港シートレインランドは、ガーデンふ頭内のJR貨物名古屋港駅跡地に、1995年に開設された。高さ85mの大観覧車をはじめとして、さまざまな遊具があり、名古屋港ポートビルと並ぶ名古屋港のランドマークになっている。

カ. 名古屋港跳上橋

名古屋港跳上橋は、臨港鉄道（東臨港線）が延伸された1927年、堀川の河口西側に架橋された可動式の鉄道橋であり、船舶の運航時に橋りょうを揚げて通す構造で、現存する跳上橋では日本最古である。可動橋の第一人者である山本卯太郎が設計、製作した。臨港鉄道が廃線となり、1987年は跳ね上げた状態で保存されている。国の登録有形文化財に登録されているほか、経済産業省が近代化産業遺産に認定している。

(2) 金城ふ頭の諸施設

ア. 名古屋市国際展示場「ポートメッセなごや」

名古屋市国際展示場「ポートメッセなごや」は、全国有数規模の総合コンベンション施設で、総展示面積約34,000㎡の展示スペースを持つ。1973年に第1展示館が開設され、1993年までに計3つの展示館が開設された。見本市、展示会、会議、セミナーなどに活用されているほか、モーターショー、マンモスフリーマーケット、同人

誌即売会など極めて集客力の高いイベントも定期開催されている。



写真提供：名古屋港管理組合

イ. テバオーシャンアリーナ

(TEVA OCEAN ARENA)

テバオーシャンアリーナは、国内初のフットサル専用アリーナとして2008年にオープンした。日本では初となるプロフットサルクラブ「名古屋オーシャンズ」の本拠地となっているほか、フットサルの全国大会も開催されている。

ウ. リニア・鉄道館

リニア・鉄道館は、2011年、実車両などを多数展示する鉄道関連の大型博物館として、JR東海により開設された。開館から2年4ヶ月の2013年7月には入場者数が200万人を突破している。



中部圏社会経済研究所にて撮影

エ. ゲストハウスウェディング

ゲストハウスウェディングは、港に面した結婚式場施設で、地中海やエーゲ海のリゾート地をテーマにデザインした斬新な外観が特徴的である。

(3) その他のふ頭の施設

ア. 名古屋港ゴルフ倶楽部（富浜コース）

名古屋港ゴルフ倶楽部（富浜コース）は、名古屋港の西端に位置する鍋田ふ頭の一角に、2000年にオープンした。名古屋の都心からわずか30分余り。富浜コースは、名古屋市出身の女子プロゴルファー塩谷育代（日本女子プロゴルフ協会会員）がコース監修し、伊勢湾に面した雄大なパノラマの中に広がる、都会派ゴルファーのためのシーサイドパブリックコースである。

全18ホール、初心者から上級者まで幅広い層をカバーする豊かな戦力性を盛り込んだコースは、ゴルフ本来の楽しさと醍醐味に満ちている。

イ. 名古屋港海洋トレーニングセンター

名古屋港海洋トレーニングセンターは、カッター訓練施設で、稲永ふ頭の北端にある。艇庫やジブクレーンなどを完備しており、1964年に設立された中日海洋少年団が訓練やレクリエーションの拠点としており、一般の初心者の利用も可能である。

ウ. 新舞子マリンパーク

新舞子マリンパークは、南5区に1997年にオープンした。対岸は、かつて愛知県屈指の海水浴場のひとつであった新舞子海水浴場で、その後継ともいえる長さ400mの人工海浜「ブルーサンビーチ」を中心に、スポーツ広場、ピクニック広場などが整備されている。

2004年には高さ91mの風力発電所が設置され



写真提供：名古屋港管理組合

た。園内で使用する電力を賄うほか、余剰電力を電力会社に販売している。また、南5区の北側にはプレジャーボート用の係留施設「新舞子ボートパーク」が整備されている。

(4) マスコットキャラクター

マスコットキャラクターは、名古屋港開港100周年PRマスコットキャラクターとして、2006年に「ポータン」が、翌年に「ミータン」が設定された。船が接岸する際、ロープをかける鉄柱（ボラード）をモチーフにしている。



写真提供：名古屋港管理組合

(5) 名古屋港遊覧船と定期航路

名古屋港内を周遊する遊覧船は、1954年に名古屋港通船給水株式会社によって運航が開始された。1966年に名鉄海上観光船株式会社に譲渡され、同年設立された株式会社名鉄名港遊覧船が2001年まで運航した。両社の合併に伴い名鉄海上観光船株式会社が運航を継続したが、利用客の減少により2006年に撤退し、翌年他社により復活するも、これもほどなくして休止となり、現在は東山ガーデン株式会社が受け継ぎ、運航している。2014年の時点で定期運航はなく、直近では2014年のゴールデンウィークに5日間運航された。

港内の定期航路は、名鉄海上観光船株式会社などによりガーデンふ頭～ブルーボネット間で運航されていたが、運航会社の撤退により一旦廃止される。2011年、前述の東山ガーデン株式会社により、ガーデンふ頭～金城ふ頭間で定期航路の運航が再開され、さらに2013年にはガーデンふ頭～

ルーボネット～金城ふ頭間に路線を拡大して「名古屋港トリトンライン」と称し、名古屋港内の主要観光施設を結ぶ航路として輸送の役割を担っている。

（6）アクセス

名古屋港への鉄道による旅客輸送は、ガーデンふ頭へは1971年に開通した名古屋市地下鉄名港線が、また金城ふ頭方面へは2004年に開通したあおなみ線がそれぞれ担っている。名古屋市交通局の路線バスがこれを補完しており、港区役所から稲永・潮凧・空見ふ頭（フェリーふ頭）へ、金山・新瑞橋などから船見・潮見ふ頭への路線が運行されている。

また金城ふ頭には、伊勢湾岸自動車道の名港中央インターが設けられている。



写真提供：名古屋港管理組合

（7）フェリー航路

名古屋港を起点とするフェリーは、1972年2月に日本高速フェリー株式会社が名古屋～高知～鹿児島に就航したのが最初で（1979年4月に廃止）、翌年には、太平洋沿海フェリー株式会社が名古屋～仙台～苫小牧便の運航を開始した。1982年に設立された太平洋フェリー株式会社が路線を引き継いで定期運航し、現在に至っている。

名古屋～仙台～苫小牧便の所用時間は約40時間、名古屋～仙台間は21時間40分となっており、空見ふ頭の一角にある名古屋フェリーターミナルから発着する。現在は「きそ」、「いしかり」、「きたかみ」の3船で運航され、いずれも客室のほか、展

望大浴場など充実した船内設備を備えている。



写真提供：名古屋港管理組合

3. 危機管理体制

（1）概要

防災計画としては、災害対策基本法に基づき1963年に策定された「名古屋港管理組合防災計画」がある。これに基づき、港湾施設などの災害予防、応急対策、復旧体制を整えるとともに、国や県、市町村の地域防災計画の作成、実施に協力している。

2002年には、国の中央防災会議において「東海地震防災対策強化地域」に指定されたことを受け、大規模地震対策の基本となる「東海地震対策実施計画」を策定した。また同年には「名古屋港貯木場施設地震津波防災応急計画」を策定している。東南海・南海地震に対しては、2004年に「東南海・南海地震に係る地震防災対策計画」を策定した。次いで2005年には「東南海・南海地震対策実施計画」を策定し、津波発生時の情報伝達や避難対策について定めた。

さらに、東日本大震災において東日本各地の港湾施設が甚大な被害、機能停止したことを受け、国や地方自治体と調整を図りつつ、防災計画の見直しが進められている。その中で、震災翌年の2012年には「名古屋港管理組合業務継続計画（地震編）」がまとめられた。

ほかには「国際航海船舶及び国際港湾施設の確保等に関する法律」により義務付けられた、フェンスおよびゲート、監視カメラなどの保安設備の

設置、保安訓練の実施などのテロ対策に取り組んでいる。また、官民一体となった保安体制の連携強化を図るべく、名古屋港管理組合を事務局とする「名古屋港保安委員会（ナゴヤハーバーネットワーク）」を設けている。

(2) 防災関連の諸施設

ア. 高潮防波堤

高潮防波堤は、1959年に発生した伊勢湾台風による高潮で、名古屋港および後背地が甚大な被害を受けたことを受けて整備が始まり、1962～64年のわずか2年8ヶ月の工期により完成した。鍋田堤、中央堤、知多堤の3堤から成り、総延長は7.6kmに及び、名古屋港基準面より6.5m高くなっている。また、中央堤を挟んでポー

トアイランドが造成されている。

築造から50年が経過し、老朽化や大規模地震による沈下によって高潮や津波からの防護効果の低下が懸念されていることから、現在、名古屋港基準面より8mまで高くする嵩上げやケーソン補強などが、今年度中の完工を目標に進められている。

なお、工事が開始されるまでは、知多堤の堤上が「名古屋港海づり公園」として一般に開放されていた。

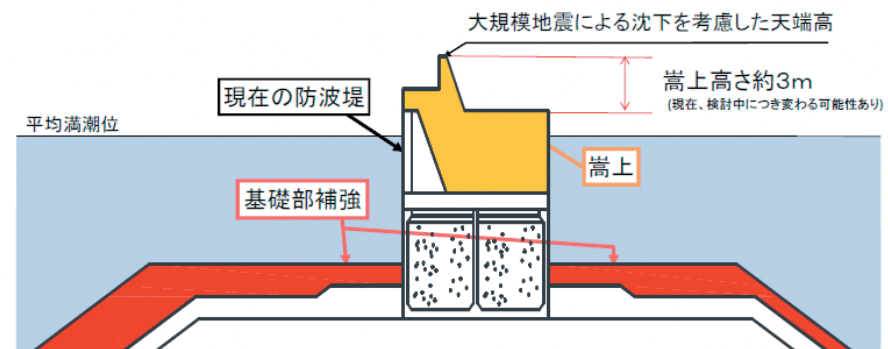
イ. 防潮水門

防潮水門は、伊勢湾台風時に堀川沿岸も被害が大きかったことから、1964年、高潮対策として堀川河口に建設された。高潮などの海面上昇

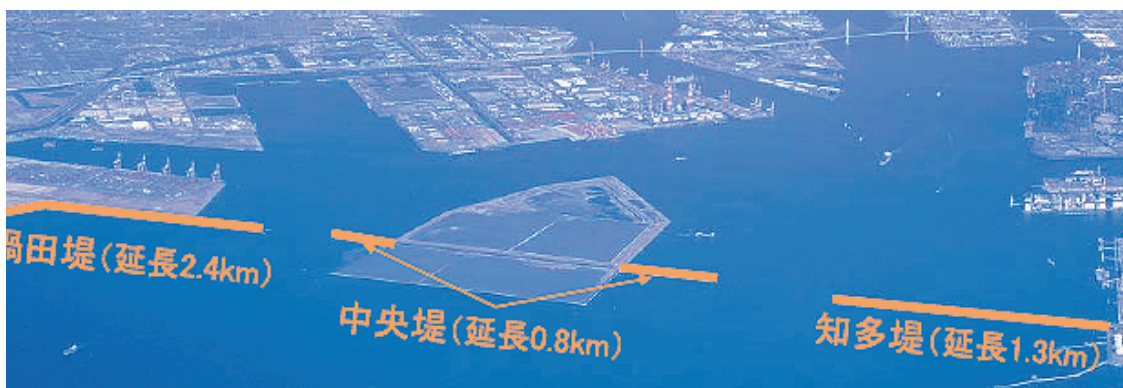
防波堤（改良）事業の進め方

- 東日本大震災に基づく新たな知見を踏まえ、**老朽化対策**や**大規模地震に備えた沈下対策（嵩上げ工法等）**、想定を超える津波に対する**「粘り強い構造」等の技術検討**を実施。

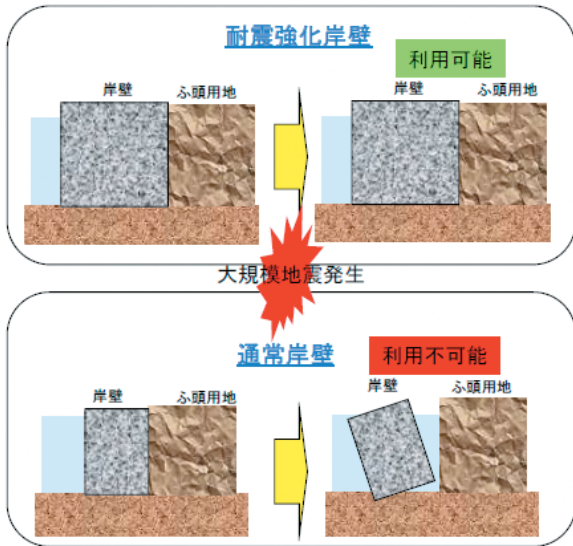
技術的検討を進めている対策工法（イメージ）



- 緊急性・重要性が高く、社会的要請の大きい事業であり、技術検討などの**諸準備や関係者調整を効率的に進め、順次、工事に着手し早期完了**を目指す。



写真提供：国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所



出典：国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所

時に水門を閉鎖し、堀川に流入してきた水を海側にポンプで排水する。東日本大震災を受け門扉の補強が行われ、今後は通航水門の補強が計画されている。

ウ. 防潮壁と防潮扉

市街地への高潮の流入を防ぐべく、総延長26.4kmに及ぶ防潮壁が設置されている。名古屋港の基準面より6～6.5m高い。また、37基の防潮扉が設置され、「沿岸防災情報管理システム」による一元管理を行っている。

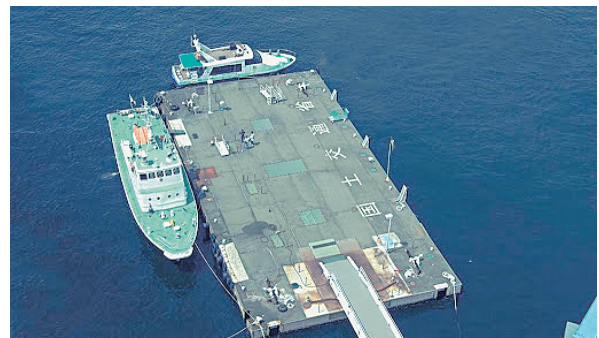
エ. 耐震強化岸壁

耐震強化岸壁は、大規模地震の発生直後でも緊急物資などの輸送ができるよう、一般の岸壁よりも耐震性を強化した岸壁である。現在は、大江ふ頭と潮凧ふ頭で緊急物資や海上輸送ルート確保用に、鍋田ふ頭と飛島ふ頭南側でコンテナ物流機能確保用に整備されている。この岸壁は、緑地などのオープンスペースと一体となって、緊急物資の荷捌きおよび一時保管、支援部隊のベースキャンプなどの防災拠点となる。このほかにガーデンふ頭、稲永ふ頭などでも整備が計画されている。

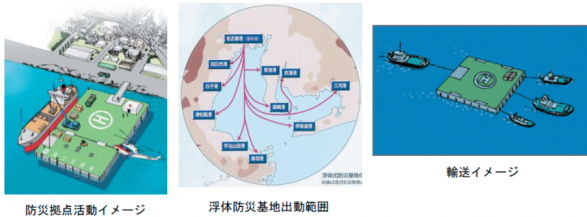
オ. 浮体式防災基地

浮体式防災基地は、耐震強化岸壁を補完するもので、地震災害時などの緊急時に被災地に曳航し、避難生活および復旧活動を支援する防災基地にすることを目的とした浮体構造物で、大小2基が金城ふ頭とガーデンふ頭に設置されている。災害時には被災地に曳航され、海上からの支援活動に使用される。平常時は小型船舶の浮棧橋として利用し、緊急時に必要な場所へ移動して緊急救援活動を支援するため、以下のような機能を有している。なお、出動可能範囲は、伊勢湾・三河湾内となっている。

1. 緊急時の人員輸送機能
2. 緊急物資の搬入、仕分け、一時保存および搬送機能
3. 啓開資機材の搬入・搬出機能
4. 災害対策本部などと相互連絡が可能な通信機能



写真提供：名古屋港管理組合



出典：国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所

カ. しゅんせつ兼油回収船「清龍丸」

国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所は、日本最大のしゅんせつ兼油回収船「清龍丸」を有している。通常時はしゅんせつに携わるが、原油タンカーなどから大量の油が流出する事故が発生したときには、名古屋港内のみならず全国に出動し、油回収作業を行う。船体には2タイプの油回収器を搭載しており、油の粘度に関わらず効率よく回収することができ、また回収可能な量も1時間にドラム缶約5,000本分と、高い機能を備えている。

初代の清龍丸の就航は1978年で、26年間使用され、油回収に5回出動した。とりわけ1997年に島根県隠岐島で発生したロシアのナホトカ号重油流出事故では延べ54日間も出動しており、そのうち被害の大きかった福井県三国町沖で42日間の作業に従事し、総計938KL（ドラム缶換算4,690本分）の油を回収して注目を集めた。2005年からは二代目の清龍丸が就航している。

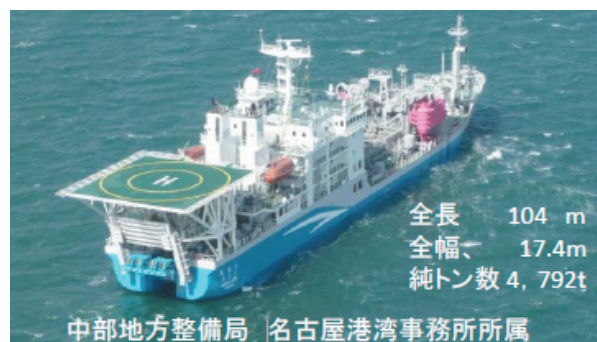
そのほか、船にはヘリコプターデッキや衛星通信システムなどを備えており、大地震などの災害時には防災基地としても活用できるような設備が整えられている点も特徴である。

下の表は、1978年から26年間活躍してきた旧清龍丸の実績である。

2005年からは新しい清龍丸を配備している。

キ. 海洋環境事業

船舶航行の安全を確保するとともに、海域環境の保全を図るため、東京湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明・八代海（港湾区域、漁港区域を除く）において、海面に浮遊するごみや油の回収を国の回収船により実施している。このほかに、閉鎖性海域の水質を把握するための海洋環境整備



出典：国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所

発生年月日	1978. 11. 8	1990. 1. 26	1997. 1. 2	1997. 4. 3	1997. 7. 2
発生場所	三重県四日市沖	京都府経ヶ岬沖	島根県隠岐島沖	長崎県対馬沖	東京湾本牧沖
流出量	105KL	650KL	6,240KL	186KL	1,550KL
事故船名	降洋丸	マリタイムガーデニア号	ナホトカ号	オーソン No.3号	ダイヤモンドグレース号
出動日数	5日間	26日間	54日間	13日間	5日間
回収量	5KL	20KL	938KL	8KL	228KL

出典：国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所

船によるモニタリング調査を実施している。

ク. 海洋環境整備船「白龍」

海洋環境整備船「白龍」は、伊勢湾および三河湾内の環境保全と航行船舶の安全を図るため、海面に浮遊するゴミを回収している。

また、大規模油流出事故が発生した場合は、海洋汚染防除のため、速やかに事故現場へ向かい、油回収業務を行う。地震や津波発生時の航路啓開、大雨により流出した流木等の回収等の機能を有している。さらに、環境特性の把握のために、伊勢湾と三河湾の水質、底質調査、海底地形探査等の調査を行っている。

4. しゅんせつ土砂の処分

(1) ポートアイランドの現況

名古屋港では、外航船の大型化に対応できるように、航路の拡幅および増深と大型岸壁の整備が1970年代から進められた。これに伴い大量のしゅんせつ土砂が発生するが、その受け入れのため、1975年、名古屋港の入口にポートアイランドの造成を開始した。2013年までに累計約4,700千万 m^3 のしゅんせつ土砂が処分されている。

(2) 課題

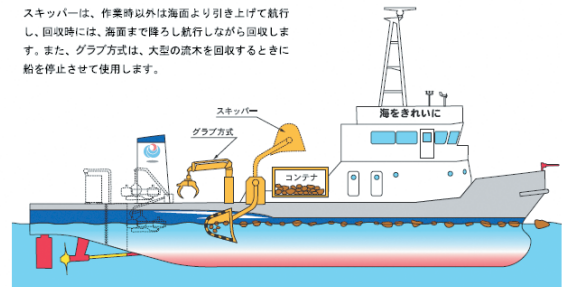
名古屋港管理組合が2000年に策定した「名古屋港港湾計画」では、2008年代前半までに約3千万 m^3 のしゅんせつを目標としており、しゅんせつ土砂の大規模な処分場として南5区Ⅱ期（約2,000万 m^3 ）と、第4ポートアイランド（約900万 m^3 ）が計画された。しかし、関係各所の調整の見通しが立たないことなどから早期の完工は困難となっている。

このため、ポートアイランドに土砂が仮置きされているが、現状では計画の地盤の高さを11m以上も超え、ビル4階分に相当する量に達している。数年後には限界となる見通しで、新しい処分場の検討が行われている。現段階では中部国際空港沖が有力視されている。



清掃装置説明図

スキッパーは、作業時以外は海面より引き上げて航行し、回収時には、海面まで降ろし航行しながら回収します。また、クラブ方式は、大型の流木を回収するときに船を停止させて使用します。



ゴミ及び油回収管轄区域



出典：国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所

5. インタビュー

前回に引き続き、国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所長 永井 一浩氏、名古屋港管理組合企画調整室次長 村上 耕一氏のお二人にお話を伺いました。



村上 耕一氏

永井 一浩氏

国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所長 永井 一浩氏

プロフィール

- 1989年 3月 東京大学工学部卒業
- 1996年 4月 運輸省港湾局計画課企画調査室専門官
- 1999年 4月 厚生省生活衛生局水道環境部環境整備課産業廃棄物対策室室長補佐
- 2001年 1月 国土交通省海事局港運課課長補佐（総括）
- 2004年 4月 国土交通省四国地方整備局港湾空港部港湾空港企画官
- 2006年 7月 館山市副市長
- 2011年 7月 国土交通省航空局航空ネットワーク部航空ネットワーク企画課中部圏空港企画調整官
- 2012年 6月 国土交通省港湾局海岸・防災課海岸・防災企画官
- 2013年 6月 国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所長

名古屋港管理組合企画調整室次長 村上 耕一氏

プロフィール

- 1982年 4月 名古屋港管理組合採用
- 1995年 4月 計画部事業計画課主査
- 2005年 4月 企画調整室主幹（企画担当）
- 2008年 4月 企画調整室担当課長（事業担当）
- 2009年 4月 建設部工事課長
- 2011年 4月 建設部担当部長（総合開発担当）
- 2013年 4月 企画調整室次長

—地域の人々にもよく知られている防災関連施設として高潮防波堤がありますが、これについてお聞かせください。

永井 建設されたのは1962年～1964年の3か年で、現在の額で50億円くらいが集中的に使われました。軟弱地盤で、当時の港湾の技術では難工事でした。この建設のために名古屋港湾事務所が1960年に設立され、その最初の仕事が高潮防波堤だったので。

—この位置に建設されたのは先見の明があったと思います。いかがでしょうか。

永井 しゅんせつ土砂を有効に活用して新しい工業用地を造成するという計画があったために、この場所になったものと思います。工事用地はちょうど50年間で計画どおり埋め立てが完了しました。

ここで特筆すべきは、企業が自然に来たわけではなく、管理組合を中心に名古屋の経済界などが誘致をしたことです。新日鐵住金株式会社名古屋製鉄所はかつて東海製鉄株式会社といい、富士製鉄株式会社と地元財界が共同で出資し、地元で作った会社でした。このことが、現在のような自動車産業の成功につながったと思います。50年かけて地域の方々の熱意で港を作ってきたといえます。

—東日本大震災の時、物資の海上輸送が活躍し、港の存在が見直されていますが、防災に関しての施策などがありましたらお聞かせください。

村上 当然、震災以前から防災計画はありましたが、東日本大震災以降、管理組合としてハード、ソフト両面の対策に取り組んでいます。ハードについては、被害予測調査や高潮による浸水予測など最新の知見を反映させた愛知県の指針が2014年度にできる予定で、それを踏まえた防災対策や防災行動計画の策定に取り組んでいるところです。名古屋港の防災計画を作るうえでは、有識者による検討会を設けて、ソフト面も含めて考えています。また、港湾BCP（事業継続計画）も並行して検討されており、災害時に名古屋港が果たすべき役割を関係各所と調整しながら策定中です。

また、名古屋港の中に防潮壁が26kmほどあり、うち早急に整備すべき4.4kmの整備がまだ進んでいないので、1年でも早く対応できるよう考えていかなければなりません。これについては、液状化対策がメインになると思います。

永井 喫緊の課題は南海トラフ巨大地震です。名古屋港は55年前に伊勢湾台風という苦い経験をしており、その教訓もあって高潮防波堤で第一波を防ぎ、防潮壁（海岸堤防）でしっかり浸水からガードする形になっています。

対応としては、まず高潮防波堤を50年ぶりに改修します。伊勢湾台風クラスの高潮だけでなく地震による津波が起きた場合にも持ちこたえる粘り強い防波堤として、2014年度から本格的工事に入り、2017年度には完工の予定です。これは地元の期待も高いですので、しっかり取り組んでいきたいと思います。また、防潮壁についても関係団体としっかり協力して進めていきます。

ポートアイランドも、地震が起きた時に崩れて土砂が流出するのではという心配がありましたが、今年度から築堤の補強（セメントを混ぜて幅を広げる）をしていますし、外側の護岸が40年経過し老朽化している部分もありますので、来年度以降も対策を講じていく予定です。

—レジャーに関しての計画はいかがでしょう。

村上 ガーデンふ頭はかつては物流の場でしたが、港が沖へと展開していく昭和40年代に計画が出され、再開発が盛んになりました。もともと西・中央・東の3ふ頭があり、東ふ頭と中央ふ頭の間を昭和50年代から埋め立て、のちに一般公募で「ガーデンふ頭」の名が付けました。埋立地に緑地を作り、1981年にポートビルを建設、1985年に「南極観測船ふじ」を誘致、1992年に名古屋港水族館が開館しています。

名古屋港全体の緑化計画では、当初、住工分離のための緩衝緑地を南部工業地帯に作るようになっていました。しかし、港湾法が1973年に改訂されたのを受け、時代の要請に合わせて、休息緑地、スポーツ・レクリエーション施設が整備されてき

ました。現在は、330haほどの緑地計画のうち77%にあたる253haが整備されています。

名古屋港にはさまざまな緑地がありますが、面白いところでは2000年に鍋田ふ頭にオープンした本格的なゴルフ場があります。当初はごく一般的な緑地として計画されていたのですが、330haの計画緑地があり、港湾緑地の事業が2億円くらいしか予算のない中で、いつ整備されるかわからない状況でした。しかし、環境や安全面から放置しておくわけにもいきません。そこで、ゴルフ場を造成すればその収益で緑地の維持管理もできるということに着目し、本格的なリンクスタイプのゴルフ場が建設されたのです。今では年間4万人以上の利用者があり、親しまれる施設になっています。

金城ふ頭は、ガーデンふ頭とともに名古屋市の交流拠点にすべく整備が進められてきました。あおなみ線、リニア・鉄道館、商業施設、プロフットサルチームの本拠地などが相次いで整備され、レゴランドの誘致も行われそろそろ建設に入ります。

舟運が減ってきた中川運河は、再生しようという機運が一時期ありました。以前「中川運河再開発基本計画」が作られたのですが、いろいろな事情があり進んでいません。その中でも1997年より中川口緑地の整備が始められ、完成後はレガッタの大会やドラゴンボート大会が開催されるなど、市民に親しまれています。また、堀止緑地を「ささしまライブ24地区」と一体化させる整備工事も行われています。

現在は、より実効性のある計画作りのために「中川運河再生推進会議」を設置し、にぎわいゾーン、モノづくり産業ゾーン、レクリエーションゾーンの3つに分けて、市民と企業と行政が一体となって整備を進めようとしているところです。同時に、水質浄化も検討中です。

永井 名古屋港の唯一の欠点は、港や水辺空間と市民との関係が遠いということです。生い立ちから見れば物理的に遠いのは仕方ないものの、市民と港の接点を作るという取り組みが非常に重要で

す。

いま港湾局では、外航クルーズ船の誘致に取り組んでおり、2014年2月5日に「第一回名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」を開催しました。那覇や横浜と比べるとクルーズ船の寄港がまだ少ないので、中部地方整備局の副局長もメンバーに加わり精力的に取り組んでいるところです。これに金城ふ頭などの再開発も絡めていくと面白いのではないのでしょうか。

村上 2013年は36隻のクルーズ船が寄港しましたが、そのうち外国のクルーズ船は4隻しか入っていません。大きい船だと名港トリトンをくぐれない場合がありますので、昨年度、金城ふ頭を大型船が停船できるように改良するなど、受け入れ対策もしています。

昨年、外航クルーズ船誘致に関する調査・研究を行いました。今年は名古屋商工会議所に「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」の事務局が置かれ、財界や港湾関係者が一体となって対策を図ろうとしています。今年4月に「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」が入港しましたが、これもトリトンをくぐれなかったので、金城ふ頭に接岸しました。多くの人が名古屋でも下船されますので、通関対策などの課題にも取り組みました。名古屋港が不便なところと思われたいよう、しっかり対策を講じていかなければなりません。

—イタリア村ができた当時のにぎわいのようなことを打ち出せば、もっと市民も目を向けると思いますが、いかがでしょうか。

村上 イタリア村は最高で400万人の来場者があり、かなりのインパクトがありました。ただ、来場者はどちらかといえば観光目的で来たのに対して、運営側は「物販で勝負」という意識があり、ギャップがあったようです。また、三方を海に囲まれているため、商圈が狭かったという指摘もありました。

商業的なことをやるなら金城ふ頭のほうがいいとも言われています。決してにぎわいだけが目的ではありませんが、少しでもにぎわいを創出でき

るよう、担当部署は取り組んでいます。ただ、「名古屋でうまくいく事業は冠婚葬祭や温泉ぐらいだ」とも言われており、イタリア村のような面白い商業系施設はなかなかつくり難いという点は否めません。

—最後に、港の将来性、今後のあり方、方向性などありましたらお聞かせください。

永井 私自身は、課題の多い港だと認識しています。港の現状を改めてみると、土地不足、水深が浅いことによる大型船への対応、陸上交通の充実度、新たなしゅんせつ土砂の処分場の確保など、かなり多くの課題を抱えています。港湾利用者（企業）が成長していただくためには、港をもう一度見直し、先を見据えてそれらの課題に取り組む必要があると思います。先輩たちが頑張ってきたことをしっかり引き継ぎ、熱意を持って進めていくことが、名古屋港の発展のために大事だと思います。

村上 名古屋港にも今まで入ってこなかった大型船が入ってくるようになったので、大型化への対応、しゅんせつ土砂処分場の問題、コンテナ運営の一元管理、防災など、時代の流れを見てきっちり対応していかなければいけません。

名古屋港では定期的な見学会を催していますし、スターライトレビューやみなと祭などは30万人規模の来訪もあります。昔を知る人から「名古屋港もけっこう変わったね」という声をいただいていますので、そういった言葉を励みに、さまざまな事業に力を入れていきたいと思っています。